

議 事 録 (要旨)

会議名

第3回佐久市臼田地区生涯活躍のまち事業化検討委員会

日 時	平成28年3月18日 (金)	開催場所	あいとぴあ臼田 多目的室2	時 間	10:00 ～ 11:00
出席者	委 員：井出民生、市川伊知郎、伊藤洋平、佐々木豊、篠原寿人、 関敦、細谷たき子、堀内文雄、柳澤悦雄、山田厚子 オブザーバー：長野県企画振興部地域振興課 課長補佐兼活力創出係長 柳澤祐史 事務局：地域局長 依田猛、地域整備室長 遠藤修、 地域整備係長 市村志郎、地域整備係 森泉沙織				委員 出 11人 欠 2人
提出資料	・資料1 佐久市臼田地区生涯活躍のまち事業化基本計画（案） ・資料2 「生涯活躍のまち移住促進センター」佐久市ブースパネル図				

《 1 開会 》

《 2 会議事項 》

(1) 佐久市臼田地区生涯活躍のまち事業化基本計画（案）について
 事務局より説明【資料1】【資料2】

委員 事業計画期間が「平成30年（2018年度）まで」とあるが、基本計画（案）に掲げてある魅力や課題、重点項目については2018年度から具体的に取り組むということなのか。

事務局 計画においてサ高住の入居開始が平成30年としており、その期間までに魅力や課題、重点項目を整えていくというイメージである。また、サ高住運営後の平成30年度以降についても必要に応じて取り組むべきものと考えている。
 国の交付金申請時の目標値が平成30年度までとしている。重要業績評価指標（KPI）も同様であり、この達成年が平成30年である。
 目標は掲げているが、佐久市の生涯活躍のまちはモデル地区である臼田地区のみならず継続して事業を進めていくというスタンスである。

委員 基本計画は事業化に向けた計画だと思うが、どう事業主体を作っていくかや、まちづくり会社が曖昧な位置付けであるため、事業化のイメージがスムーズに頭に入っていない。

事務局 国では、関係省庁による支援チームを3月に結成し、全国の生涯活躍のまちに取り組む自治体に対して支援をしていくとのこと。全国でも200以上の自治体が生涯活躍のまちに取り組み、検討が始まったところである。国も自治体に対してアドバイスを行ったり情報共有しながら事業を進めていく体制づくりがようやくできたところである。国の動向を踏まえながら市も進めており、国から現在示

されている範囲が基本となってしまうため、不確定要素が多い状況である。

委員 キャッチコピーである「愛され」「褒められ」「期待され」「期待に応える」とは、まさに「人」である。この地域が愛されるためには、立派なサ高住等の建設よりも、まずは都会の人に魅力を知ってもらうことが第一である。その中で、安心して住みやすい臼田地区の魅力を、都会の方にもうまく分かりやすく発信していくことが大事になってくる。

委員 事業実施にあたっては、ある程度場所を限定することが必要である。都市型は樋橋地区を想定していると思うが、臼田地区の場合はどんな場所が想定されるのか。

事務局 基本計画（案）に臼田地区の魅力と課題を掲げているが、魅力は「佐久総合病院」、課題は「交通アクセス」である。別途市がすすめている「佐久総合病院再構築に伴う臼田まちづくり事業」におけるコンパクトシティを加味する中で、病院や支所周辺が移住者にとってもメリットが高いと感じている。皆さんとの検討や移住者のニーズを確認する中で場所を検討したいと考えており、現在のところ事務局として想定している場所はない。

委員 場所を想定した方が事業化のイメージが湧きやすいのだが。

委員 都心からのアクセスの良さは、メリットである反面、近いが故のデメリットもあると感じている。都会から佐久へ来た移住者の事例だが、こちらに家を建てたが、冬の寒さ、ごみの分別の紛らわしさ、交通の不便さから、結局別荘のように夏だけ佐久へ来るスタイルになってしまった人がいる。気持ちは分からなくもないが、生涯活躍のまちの場合での受け入れ対象者は、ある程度終の棲家として腰を落ち着ける気持ちではないと困るかなと感じている。

委員 移住促進センターにおける移住希望者の声としては、佐久市に対して交通のアクセスが魅力のひとつとして挙がっている。二地域居住を考えている移住者もいて、ゆいま～るシリーズにおいても二地域居住として将来的に住み続けるために場所を確保しておく方もいる。二地域居住により移住先に実際に住むことによって地域の魅力を感じ、移住先に腰を落ち着けるといったこともある。

委員 人との繋がりが最も重要であり、移住者に安心感や可能性を作るためには、地域づくりとして移住者が活躍できる場や、地域のどんな人と関わっていくのかなど先々のことを分かるような事業を進めていくことが大事であると感じる。ハードではなくまずはソフト面を充実させていくべきである。

委員 移住されて残っている方は地域との繋がりが強い。長い人生で培ってきた経験やスキルなどを地域でどう生かし、コミュニケーションが図れるか。移住者が活躍できる場を提供していく必要がある。

事務局 お試し居住や移住セミナーなど事前に移住希望者が訪れて、交流・体験する事業を新年度おこないたいと考えている。体験ができる体制づくりを関係機関と連携しながらすすめていきたい。

委員 お試し居住は、その場だけで終わってしまうようなイメージだが、臼田へ来たら何ができる、こんな収入の道がある、こんな人と付き合いができるなど、もっと継続性を持ってすすめていくことが必要である。

委員 やはり重要なのは「人」である。佐久はいい人が多いと言われているが、旅行先でも地域の人との触れ合いが印象に残る。アクティブシニアにとって医療・介護の充実が最期に必要なことであって、元気なうちは何を地域でやってもらうかが大事である。宅建協会に属して活躍していただいている移住者もいる。東京でPR活動をしていると農業をやりたい人が多い。実際に佐久で農業を始めて、作った作物をネットで販売して成功している人がある。こういう人をPRすることで憧れを抱いたり移住したい気持ちになる。「人」をPRすることもひとつの手である。

委員 臼田地区で約10年前に宅地造成をした地があり、7区画のうち2区画が東京と埼玉から移住してきた60代であった。一人は農業を楽しんでいて、もう一人は地区の役員を担ったりと地域に溶け込んでいる。

委員 人の繋がりが大事であり、アクティブシニアが移住してきて活動する場合、スポーツや文化活動や趣味など様々だが、この地域における「活発な公民館活動」についてもアプローチがあってもいいのでは。キャッチフレーズは長すぎるし臼田の特長を掴んでいない。公募もひとつの手だが、この事業がまだ住民に浸透しておらず関心を持っている人が少ない。ブレイン・ストーミングで決めるのが効果的だと思うが。

委員 佐久の生涯活躍のまちは全国の中でも先行しており、基本計画は良くできていると思うが、前に進むための観点として事業として形とするためには、やはり運営主体とまちづくり会社をどうしていくか早めに決めることが時間軸がある中では必要であると感じている。

事務局 運営主体や臼田地区の受入体制・メニュー作りや場所などを踏まえたものを次のステップの事業計画に盛り込みたいと考えている。

委員 基本計画（案）に掲げてある臼田地区の課題については、課題としてあげているのみなのか、解決していく方向を考えているのか。

事務局 基本計画（案）に掲げてある臼田地区の課題は、移住希望者にメリットだけをお伝えするのではなく、デメリットもPRしながら、臼田地区を選んでもらうよう

な作り込みも必要ではないかと考え、課題も記載している。課題解決に向けてひとつひとつ検討しているものではないが、中では交通アクセスにおけるデマンドタクシーの充実など課題への検討をすすめているものもある。

(2) その他

事務局より今後の委員会について

事務局

今後も移住希望者のニーズ把握や臼田地区の状況把握が必要であり、基本計画の成案は新年度の予定である。必要に応じて新年度も継続して検討委員会を開催させていただきたいのでご理解ご協力をお願いしたい。

また、生涯活躍のまちの先行事例とする施設の視察なども要望があれば検討・計画したいと考えている。

《 3 閉会 》